

平成 17 年 10 月 1 日

都道府県教育委員会教育長殿  
高等学校長殿  
中学校長殿  
国立大学附属学校長殿

金沢大学教育学部附属高等学校  
校長 江森 一郎

## 第 20 回高校教育研究協議会ご案内

### テーマ 「確かな学力の向上をめざして ー学力向上 FHS, 3 年間の取り組みー」

#### ご挨拶

本校の「学力向上フロンティアハイスクール事業」の研究指定も、最終年次となりました。平成 15 年度以来、生徒の学習意欲と学力の向上を図ることを目的として、各種の実態調査を実施し、指導方法・授業の改善その他の対策について検討してきました。本年は、研究指定の第 3 年次に当たり、「第 20 回高校教育研究協議会」を開催します。これまでの実態調査から見えてきた生徒の姿、それを踏まえた各教科・科目における学力向上対策の検討と実施、観点別評価の実践などについてご報告します。

つきましては、これらの教育研究活動に対するご批判、ご教示を賜りたく、公務ご多忙の折とは存じますが、貴校・貴職の先生方に多数ご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

#### 記

1. 主催 金沢大学教育学部附属高等学校  
2. 日時 平成 17 年 11 月 18 日（金）  
3. 会場 金沢大学教育学部附属高等学校  
〒921-8105 金沢市平和町 1 丁目 1 番 15 号  
TEL (076) 226-2154 (代表) FAX (076) 226-2150

4. 日程
- |             |                |
|-------------|----------------|
| 8:20～       | 受付             |
| 9:00～ 9:50  | 第 1 時限         |
| 10:05～10:55 | 第 2 時限         |
| 11:10～12:10 | 分科会（1）授業整理会・協議 |
| 12:10～13:00 | 昼食・休憩          |
| 13:00～14:15 | 分科会（2）研究発表会・協議 |
| 14:30～15:00 | 全体会            |
| 15:00～16:30 | 講演会            |
| 16:30～      | 閉会行事           |

5. 公開授業

○第1時限（9：00～9：50）

| クラス      | 教科（科目）         | 内 容   | 場 所       | 授業者   |
|----------|----------------|---|-----------|-------|
| 1 A      | 国 語<br>(国語総合)  | 単元「本を紹介しよう」<br>教師がブックトークを行い、その後、数名の生徒に好きな本の紹介を行わせる。読書への意欲関心を高め、これをより幅広い読書経験の動機付けとしたい。                                   | 1 A教室     | 島村潤一郎 |
| 1 B      | 英 語<br>(OC I)  | 単元「動名詞」<br>文法知識の詰め込みに終始せず、円滑にコミュニケーションを行うために文法事項がいかに関立つかを生徒が実感できる授業を目指す。説明や例文の暗唱、演習といった input からの output へつなげる授業展開を試みる。 | 1 B教室     | 兼近理子  |
| 1 C      | 地理歴史<br>(世界史A) | 単元「中国分割の危機と民族運動」<br>日清戦争に敗北した中国が、列強による利権争奪・分割の対象となっていく過程、国内での改革運動の挫折、義和団事件を通じての半植民地化の進行について理解させる。                       | 1 C教室     | 石尾和彦  |
| 2<br>S 2 | 理 科<br>(物理 I)  | 単元「ドップラー効果」<br>生徒にとって身近な現象であるドップラー効果ではあるが、公式の導出は難しい。このドップラー効果を、デモ実験などを取り入れて具体的に指導する。                                    | 物理<br>実験室 | 倉 庸康  |
| 2<br>S 1 | 数 学<br>(数学 II) | 単元「三角関数」<br>いろいろな道具を活用して、円柱や球面を切断したり、張り合わせたりする作業を通して、切断からサインカーブが得られることを理解させながら、空間感覚を育成する。                               | 2 B教室     | 川谷内哲二 |

○第2時限（10：05～10：55）

| クラス | 教科（科目）          | 内 容   | 場 所   | 授業者  |
|-----|-----------------|---|-------|------|
| 1 A | 理 科<br>(理科総合)   | 単元「発生のしくみ」<br>発生の仕組みは生物の不思議さを実感する分野である。からだのでき方や再生が法則性をもって行われていることを通して思考力を養う。  | 1 A教室 | 深田和人 |
| 1 B | 公 民<br>(現代社会)   | 単元「憲法九条と平和主義を考える」<br>激動する東アジアの中でわが国をめぐる国際情勢の現状を認識するとともに、平和の意味、また、それに対してわが国が果たすべき役割を考える。   | 1 B教室 | 荒木重治 |
| 1 C | 数 学<br>(数学A)    | 単元「図形と論理」<br>新課程より高校数学に移行してきた初等幾何学を高校ではどのように扱っていけばよいか？ 生徒が幾何学を感じることでできる授業を試みる。  | 1 C教室 | 矢部篤雄 |
| 2 A | 国 語<br>(現代文)    | 単元「夏目漱石を読む」<br>今回は、漱石の文語文を材料に、多様な語彙力を問うドリルを作成し、徹底した語彙理解を通じて漱石の思想に接近する授業を試みる。  | 2 A教室 | 風間重利 |
| 2 B | 英 語<br>(リーディング) | 単元「Lesson10 Plenty of Room at the Bottom(Crown Reading)」<br>教科書を読んで訳して終わりという授業では物足りない。教科書以外の教材を導入することで、内容を深め、読んだ内容について考えたり書かせたりする活動を入れた授業を行う。 | 2 B教室 | 東 正一 |

6. 分科会 (各教科)

(1) 授業整理会・協議 (11:10~12:10)

(2) 研究発表会・協議 (13:00~14:15)

| 教科         | 発表者                   | 共同研究者                      | 研究題目                         | 内 容   | 会 場 |
|------------|-----------------------|----------------------------|------------------------------|---|-----|
| 国 語        | 奥村郁子<br>風間重利<br>島村潤一郎 | 金沢大学<br>教育学部教授<br>前 田 久 徳  | 授業評価か<br>ら見えてく<br>るもの        | 昨年度から実施している「生徒による授業評価」の目的・実施方法・結果の分析を報告し、生徒の学習意欲・学力の向上を念頭に置いた対応策を考える。<br>*情報・意見交換の時間を設ける。 | 3 A |
| 地 歴<br>公 民 | 高橋栄一                  | 金沢大学<br>教育学部教授<br>奥 田 晴 樹  | パワーポイ<br>ントを利用<br>した授業作<br>り | 視覚的な資料を多用する方策の一つとして、パワーポイントの活用を試みた。その後のアンケート調査などから課題を明らかにし、より良い活用法を提案する。                  | 音楽室 |
| 数 学        | 戸 田 偉                 | 金沢大学<br>教育学部助教授<br>大 谷 実   | 観点別評価<br>のための問<br>題作り        | 数学 I A II B の各科目の 2 領域、計 8 領域における評価規準と評価問題を作成し、それを用いて観点別評価を実施した。その観点別評価についての中間報告をする。      | 3 B |
| 理 科        | 倉 庸康<br>樫田豪利<br>深田和人  | 金沢大学<br>教育学部教授<br>川 幡 佳 一  | 観点別評価<br>方法の取り<br>組み         | 観点別評価を 2 年間実施してきた。その実施方法と問題点について、科目ごとに報告する。また、1 年次の理科カリキュラムについても報告する。                     | 3 C |
| 英 語        | 東 正一                  | 金沢大学<br>教育学部助教授<br>守 屋 哲 治 | 語彙指導の<br>あり方を考<br>える         | これまでの高校の英語教育では文法の習得が偏重され、語彙に関しては学習者まかせだった。習得すべき語彙を明示し、語彙の学習を支援する活動を取り入れたリーディングの授業を提案したい。  | 2 C |

7. 全体会 (14:30~15:00)

「学力向上 FHS」3 年間の取り組みを振り返って

奥村郁子 (研究部主任)

8. 講演会（15：00～16：30）

## 「確かな学力を目指す指導のあり方」

講師 東京工業大学教授 あかほりかんじ 赤堀侃司氏

### 【講師紹介】

昭和19年（1944年）7月21日、広島県呉市生まれ。

昭和44年3月、東京工業大学大学院理工学研究科物理学の修士課程を修了。

静岡県高等学校教諭、東京学芸大学講師、助教授、東京工業大学助教授を経て、平成3年3月から現職。

平成6年、カリフォルニア大学アーバイン校コンピュータ科学部客員教授、東京工業大学・教育工学開発センターおよび大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻教育工学講座に在籍。

早稲田大学大学院、日本女子大学、新潟大学等の非常勤講師。

国連大学高等研究所客員教授・放送大学客員教授・文部省メディア教育開発センター客員教授の兼任。

各種委員等は、文部省、青少年を取り巻く有害情報環境対策に関する調査研究協力者、研究開発学校企画調査協力者会議の協力者など。

著書等 『教育工学への招待』（ジャストシステム）  
『実践に学ぶ情報教育』（ジャストシステム）  
『解決思考で学校が変わる』（ぎょうせい）  
『情報モラルを鍛える』（ぎょうせい）

受賞等 The outstanding paper award, International  
Conference of Computer in Education,  
〈2000年11月〉  
(コンピュータと教育の国際会議の優秀論文賞)



## 9. 参加申し込み

申し込み用紙をコピーして必要事項をご記入の上、11月11日(金)までに、郵送(必着)またはFAX, メールでお申し込み下さい。(参加費不要)

### ◎ 申し込み先

金沢大学教育学部附属高等学校研究部  
〒921-8105 金沢市平和町1丁目1番15号  
TEL (076) 226-2154 FAX (076) 226-2150  
E-mail [bunkho@ed.kanazawa-u.ac.jp](mailto:bunkho@ed.kanazawa-u.ac.jp)

## 10. 会場への順路

### (1) JR金沢駅から

- ・バス：東口北鉄バスのりば⑦番から「平和町」「金大附属学校・自衛隊」方面行き(20番・21番・22番・25番系統)に乗車、「金大附属学校・自衛隊前」で下車。(約40分, バス料金230円) \*「平和町」行きの場合は、終点「平和町」より徒歩3分。
- ・タクシー：平和町・金沢大学教育学部附属高等学校まで(約30分, 料金約2,500円)

### (2) 自家用車

北陸自動車道・金沢西インターより、西インター大通り直進。(約30分)  
(駐車場は校内にあります)



(交通手段・JR金沢駅から北鉄バス、香林坊経由金大附属学校前・自衛隊前行き)

## 11. その他

- (1) 昼食 準備の都合上、ご希望の方は参加申込書にご記入下さい。(料金1000円)
- (2) 宿泊 各自ご手配下さい。

**第 20 回 高校教育研究協議会 参加申込書**

学校名 \_\_\_\_\_

所在地（〒 \_\_\_\_\_）

\_\_\_\_\_ 県

TEL（ \_\_\_\_\_ ） \_\_\_\_\_

| お 名 前 | 参加教科・分科会（○でお囲み下さい） | 昼食申込 |
|-------|--------------------|------|
|       | 国語・地歴公民・数学・理科・英語   | 有 無  |

\*昼食のお申し込みはどちらかを○でお囲み下さい。